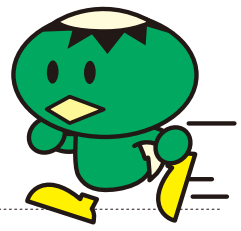
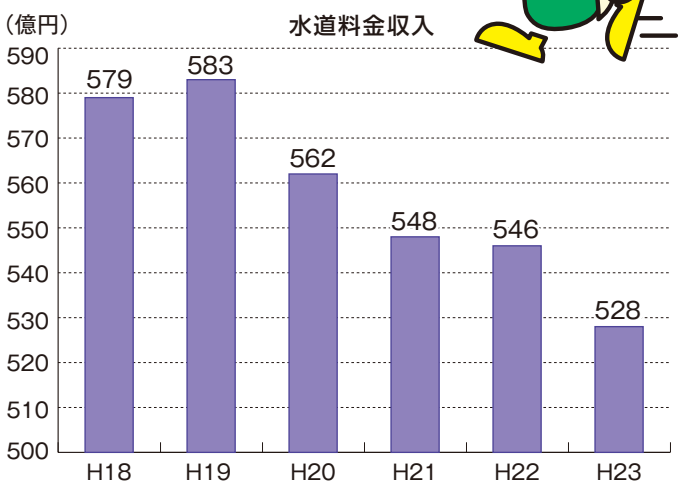
～安全で良質な水を安定的に供給するために～



県営水道は、安全で良質な水をお客さまに安定してお届けするために、平成18年に策定した「神奈川県営水道事業経営計画」に基づき、「災害に強い水道づくり」、「より安全でおいしい水の供給」、「経営改革の徹底」を柱として、次のような主要事業に取り組んでおり、特に管路の耐震化などの安全対策については、計画を前倒しで達成できる見通しです。

しかし一方で、現在の経営計画の策定以降、家庭における節水意識の高まりや、企業における水の循環利用や地下水利用への転換などに加え、平成20年秋以降の世界的な経済危機(リーマンショック)等の影響もあり、水道料金収入は、平成19年度をピークに減少を続けています。また、高度経済成長期までに整備した大量の水道施設の老朽化が進行しているほか、東日本大震災を教訓に、大規模地震に備えた災害対策の更なる推進が求められるなど、水道事業を取り巻く環境は大きく変化しています。

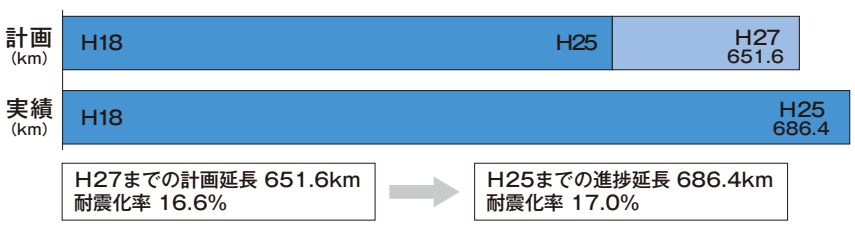
県営水道では、これらの環境の変化に対応し、今後とも安全で良質な水の安定的な供給を持続していくために、新たな水道事業経営計画の策定に向けた検討を開始しています。



災害や事故に強い水道づくり

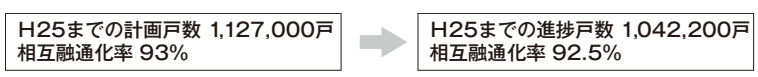
水道施設の耐震化促進事業

送配水管路の耐震性を強化するため、給水区域全域で耐震継手管を採用し、平成27年度までに、管路の耐震化率を9.5%（H16末）から16.6%に向上します。



水道施設相互融通化整備事業

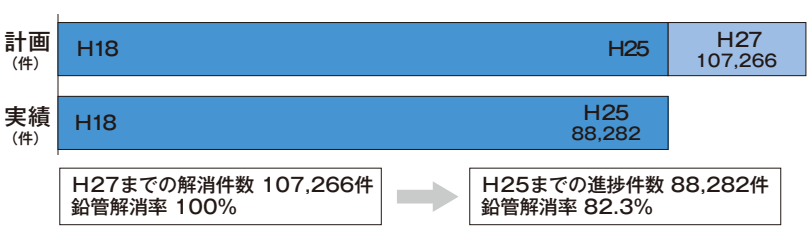
地震被災時における各地域での断減水の影響を最小限に抑えるため、浄水場系統間、水源系統間、他事業者間との水の相互融通機能を確立し、異なる浄水場からも給水が可能な戸数を、平成25年度までに全戸数の61%（H16末）から93%に向上します。



安全でおいしい水づくり

鉛管解消事業

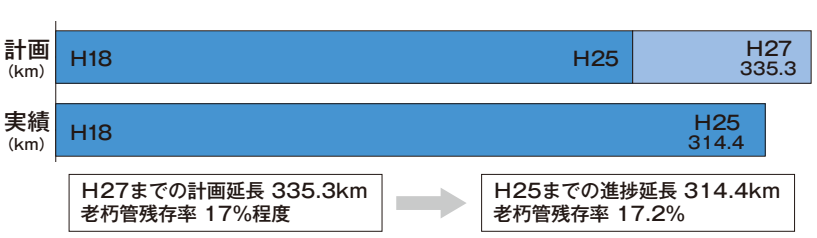
お客さまの不安感を払拭するとともに、漏水の発生を抑制するため、県営水道が所有する約10万7千件(H16末)の公道内鉛製給水管を、平成27年度までに解消します。



安定した水の供給

老朽管更新事業

管路の経年劣化に伴う漏水の発生を抑制するため、老朽管の更新を計画的かつ着実に推進し、口径75mm以上の管路に占める老朽管の割合を、22%（H16末）から平成27年度までに17%程度に減少します。



環境に配慮した事業の推進

■配水池の入水地点での未利用エネルギーを活用した小水力発電や、寒川浄水場等で太陽光発電を行っています。

■CO_2排出量の削減を図るため、水道営業所等に電気自動車を導入し、業務に活用しています

お客さまニーズへの対応

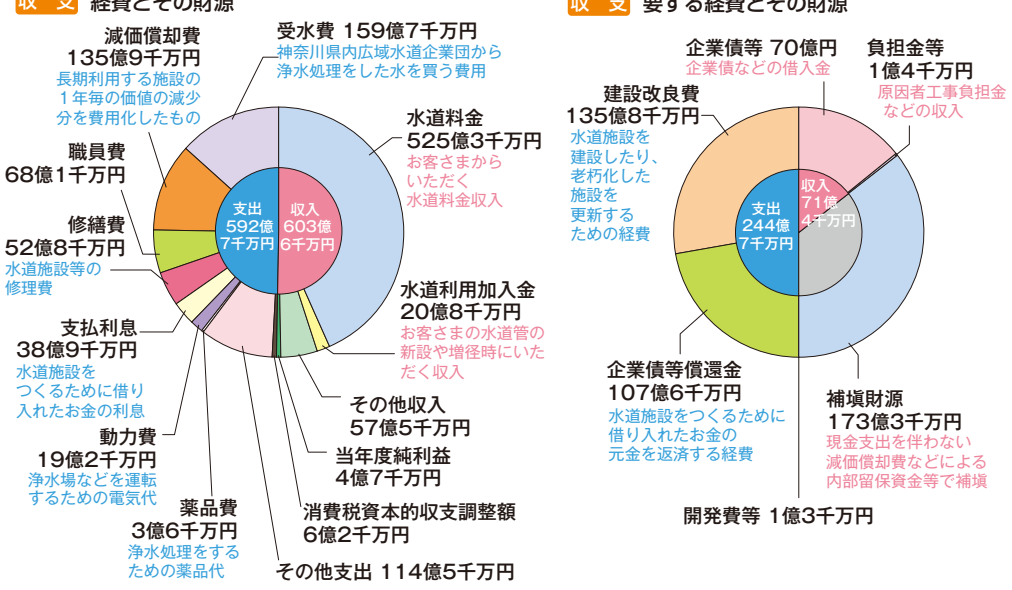
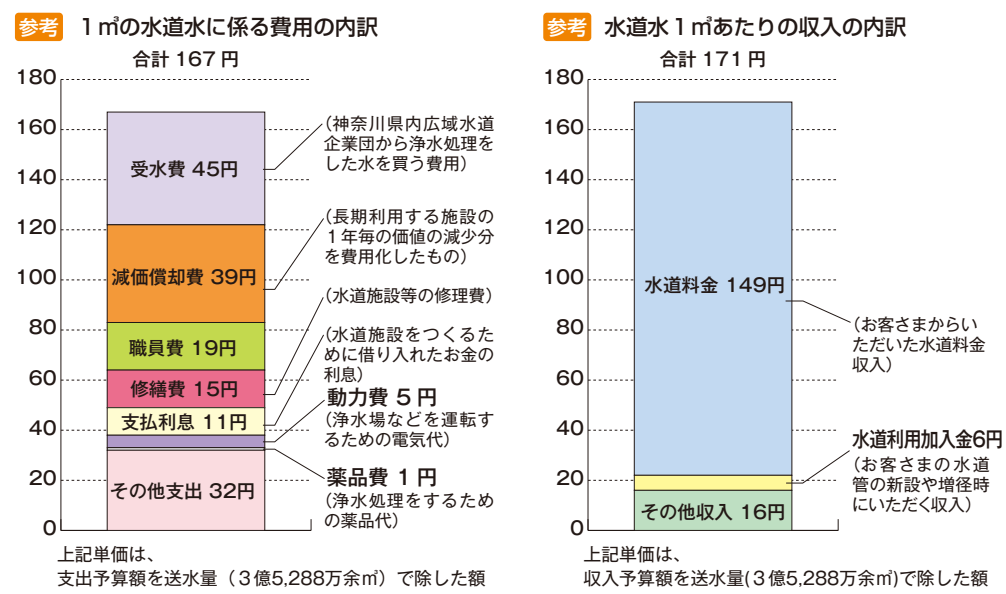
■お客さまからの電話受付業務等を行う、お客さまコールセンターを運営しています。

■水道料金納付における利便性を高めるため、口座振替日指定制度やクレジットカード払いを導入しています。

効率的な経営と経営基盤の強化

■浄水場の排水施設の運営に民間活力(PFI方式)を導入し、効率的な維持管理を行っています。

■借入金依存度の高い事業運営を改善するなどして、財務体質の健全化を図っています。

平成25年度当初予算

※金額は税込